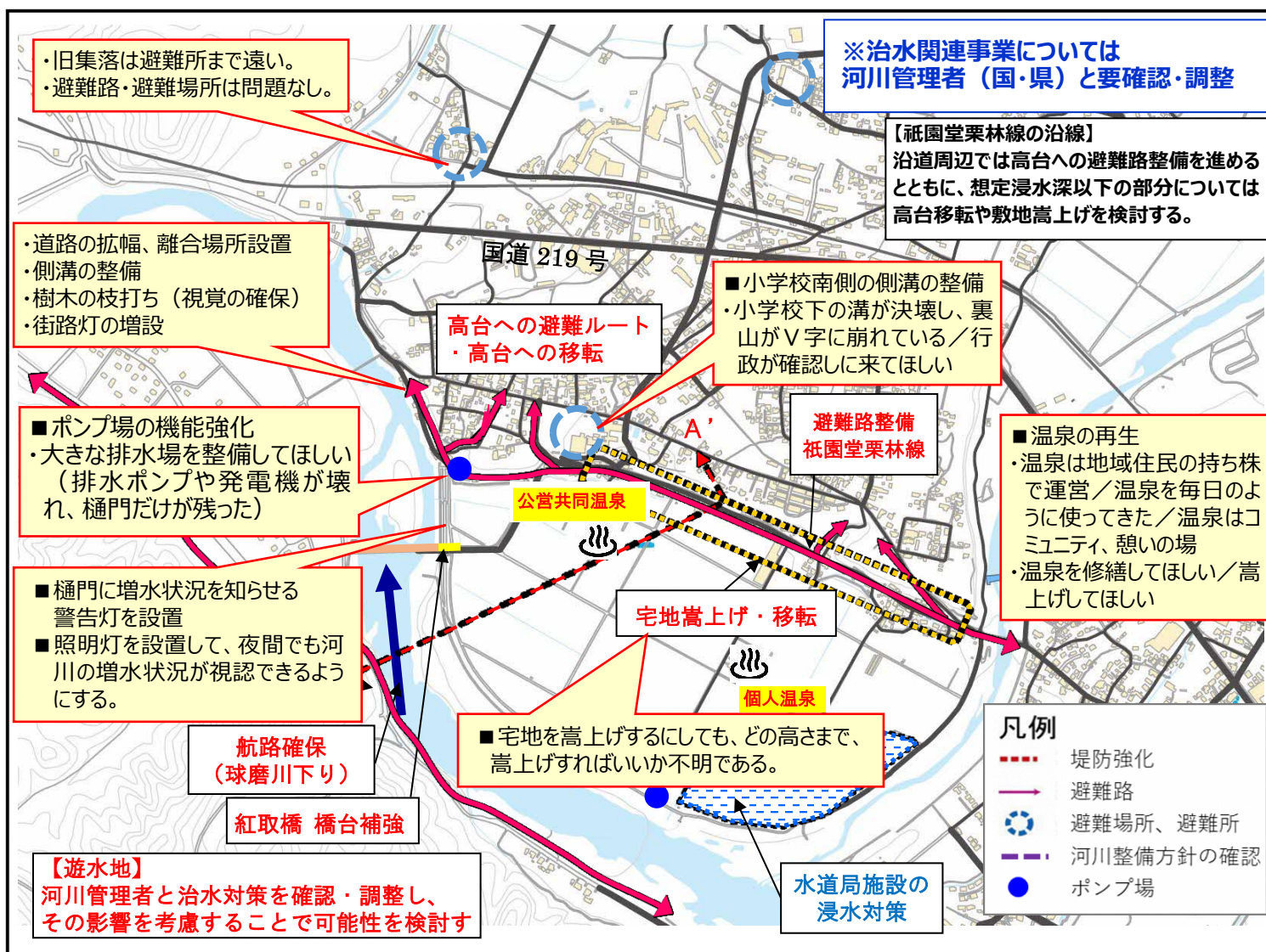


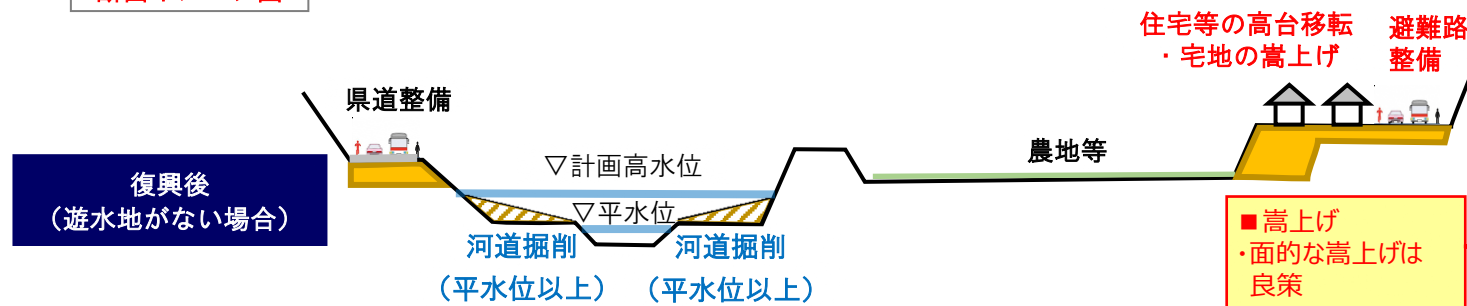
中神地区の『復興まちづくりのイメージ案』について ～第2回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第2回懇談会の参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

中神地区 復興まちづくりのイメージ(案)



断面イメージ図



◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.2

中神地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第2回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

中神地区の**対象地区は、中神町段、馬場、城本、下原田町瓜生田**です。

◆第回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案、イメージ案と参考事例について
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの方向案（課題、取組方針、具体的な取組み案）について
・復興まちづくりのイメージ案について
- 3 今後の進め方と次回日程の調整



6月8日（月）18時半から、中原小学校体育館で開催しました。（参加人数：40名）

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・7～9月の間に、概ね月1回（3～4回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：日程調整のうえ改めて連絡します。

次回のテーマ予定：復興まちづくりの具体的なイメージや手法案について

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。黄色網掛け箇所が第2回地区別懇談会における参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード （復興計画の3つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】 ・行政の対応がすべて遅い ・できるところから進めてほしい	□住まいの再建における安全性の向上 ・自費で再建した人と、今後補助金を受けて再建する人とのギャップがある。 ・今後の情報が見通せない、再建を進められないので、積極的な情報提供が不可欠。 □コミュニティ衰退からの脱却 ・町内在住者の把握が出来ておらず、世帯台帳や要支援者名簿が未整備。 ・瓜生田地区は広く、農業集落、昭和の住宅地区、バブル期の地区に分かれ、子ども会が無くなってから希薄になりつつある。 ・町内会に入っていない世帯の把握が難しく、町内行事が簡素化している。 ・地区の中心人物（ご意見番的な方）が、被災して地区外へ出て行った。 ・地区内で被災された世帯は、6世帯あるが、懇談会に出席されるのは2世帯にとどまっている。残り4世帯については、連絡等は届いていると思われるが、被災前のようなコミュニケーションがとれていない状況である。	□住まいの再建における安全性の向上 ・住宅再建に向けた行政の支援策を知りたい。嵩上げするなら、市が方向性・方針を決めてほしい。 ・国・県による生活再建が最優先。 ・仮設住宅に暮らす方が現地（元の地）で安全安心に暮らすことができるように。 ・報道を見ていると商業地の復旧の再生の話ばかりが目立つ。農村部分の復旧ももっと情報発信をしてほしい。 □コミュニティの再生 ・世帯状況を把握し、町内会や老人会等の活動の活性化を図る。	□安全性を高める建て方の誘導 ・豪雨災害以外の台風などの災害に対応した設備改善。（台風時などの避難時には、雨戸を取り付けていない。） ・堤防に接した宅地の復旧。 ・堤防の将来計画（築堤高）を考慮。 ・河川との境界を確定。 ・境界沿いに生い茂る樹木の処理。 ・熊本地震の影響による地盤のゆるみを考慮。 ・ピロティ化といってもリフォームする人は対応できない。 ・どの高さまで嵩上げされるか、補償もどうなるかもわからない中で議論するのは難しい。 ・嵩上げするとしても山側の急傾斜の崖災害もある。単純に嵩上げすれば安全というわけではない。 ・10年以上かかる治水プロジェクトを待つのはきつい。 □町内情報の整備と組織の連携 ・住基台帳を閲覧して世帯台帳を整備し、要支援者などを把握する。 ・高齢者のデイ・サロンを復活させる。 ・湧き水や文化財など地域資源を活かし、住民が一体となるようなイベントを開催する。
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	□農地復旧・農業の継続 ・農地は、長期間営農できず、放置されている状況にあり、再び収益が上がる農地として復旧するためには、多大な労力が必要となる。そのためのモチベーション維持が困難になっている。	□農地復旧・農業の継続 ・農業を継続するためには、将来、被災した農地がどのような形で、復旧されるかの見通しを示す必要がある。	□農地復旧・農業の継続 ・農地として復旧するには、遊水地との取り合いをどのようにするか、早急に対応していく必要がある。 ・農地復旧が進まず草だらけになっている。農地が復旧されればやる気もあがり、地域に元気をもたらすことに繋がる。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 ・徒歩による避難者が多く、避難時の荷物も限られ、負担になっている。 □避難所の見直し・改善 ・避難指示が出て行動を起こしても、指定避難所の受け入れ態勢が整わず、避難所前で待たされた。 ・指定避難所の開設が二転三転した。 ・中原小が開設までに1時間かかり、開設しても開いていたのが1時間。 ・旧集落は避難所まで遠いが、道路の見通しは良く、場所的にもさほど問題はない。 □安全な避難方法の確立 ・防災ラジオ（持ち運びが可能で、高齢者でも簡単に使える、勝手に情報が流れるようになっている）。 ・地区には消防団員は1人しかおらず、若手は仕事でなかなかいない。 ・屋外スピーカーが3つあるが、高低差があるため聞こえない・うるさい等の不満が聞かれる。 ・個人差もあると思うが、発災時の携帯アラームに気づけなかった方がいる。（就寝中のため）	□安全な避難路の整備 ・市道も嵩上げするのだろうか。 □避難所の見直し・機能拡充 □自助共助の避難体制の構築 ・防災無線の声は女性にしてほしい。（男性の低い声では聞こえにくかった。）	□安全な避難路の整備 ・排水溝の設置。 ・メインとなる避難ルートは道路幅員が狭く離合できないため、道の拡幅や離合場所の設置が望まれる。 ・側溝が蓋掛けされてないため、洪水時は道路全体が水浸しの状態となり、道路の境界がわからず、道を外れたり、側溝に落ち込む恐れがあるため、蓋掛け等の整備が必要。 ・今回の災害は朝方に起こったため視界は確保できたが、深夜に起こってしまえば十分な視界の確保ができないと予想されるため、視界を妨げる樹木の伐採や街路灯の整備が必要。 ・避難路で低くなっている部分に水が溜まるので、改善してほしい。 □避難所の見直し・機能拡充 ・個々の災害弱者に対応したきめ細やかなレイアウト・配置、避難所内での情報伝達媒体の改善。（ホワイトボードなどによる視覚化） ・避難所の運営方法の改善。 ・避難所（小学校、コミセン等）がバリアフリー対応になっていない。段差をなくすスロープなど対応してほしい。 ・小学校のトイレが子供用で高齢者対応になっていない。避難所設備として高齢者も使いやすいトイレを整備してほしい。（洋式トイレ、数を増やす等）→今のままでは高齢者が避難したからない。 □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 □防災情報の伝達機能強化 ・河川に接している近隣の住民は、直接河川の増水状況を視認できることで避難のタイミングを図っていたため、自己判断に任せている状況である。 ・増水状況を表す指標が近隣にないため、直接河川に近づいて視認せざるを得ない状況である。 ※近隣に樋門があり、増水状況がわかる施設（警告灯やサイレン）を設置してはどうか。 □自助共助の避難体制の構築 ・防災訓練に合わせて地区内の要支援者リストとその避難を支援する住民のリストを作成した。
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	□土砂災害警戒区域 □遊水地 □治水対策 □排水施設の見直し ・排水施設が老朽化。排水がオーバーフローすると道が通れなくなる。排水能力が不足。	□遊水地に関する情報提供 ・遊水地が完成するまでには時間を要する。 ・早く遊水地の情報がほしい、住民に伝えてほしい。 □本川・支川の水位の低下 ・輪中堤がよいのか嵩上げがよいのか？ □排水施設の整備 ・排水機能の抜本的な見直し。	□遊水地に関する情報提供 ・遊水地だけでなく現状の住まいを活かせる輪中堤や当初の計画にあった引き堤も説明してほしい。→なぜ引き堤計画はなくなってしまったのか？ □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・河川の堆積土砂の撤去が終わったと報道されているが、現状を確認すると終わったとは思えない。 ・内水排出のポンプを災害時に自動でスイッチが入るようにできないか。

